

清風宕峯会会報誌 第2号

発行日：平成17年12月
発行責任者：清風宕峯会
藤内 英夫



名誉会長 平岡 英信 理事長

清風宕峯会会員の皆様にはいつも
あたたかいご支援を賜り、有り難く
厚く御礼申し上げます。

この度はご挨拶にかえて、学園の
象徴ともいべき円形校舎について、
その歴史をお話したいと思えます。
清風の前身は昭和20年2月浅香
山に新設された財団法人浅香山電
機工業学校で、当時は電気科・機械
科がありましたが、同年6月、堺の
空襲により校舎が全焼してしま
いました。

戦後、昭和23年4月学制改革によ
り浅香山高等学校に名称変更、中
学校も併設されました。同年8月
現在の位置に移転、昭和24年1月に
校名を「清風」と改称、同年3月に
清風高等学校の第1期生が卒業し
ました。

ご存知のように、昭和25年9月ジ
ーン台風により校舎は全壊しまし
た。再建を誓い、細々と学校運営し
ていたのですが、仮校舎は何分にも

工場跡地の木造の平屋で、雨漏りが
し、天井は大きくトタンの屋根が
見えていました。

また、学制が変わり、5年制の中
等学校は3年制の高等学校となり
ました。1年生から3年生までは授
業料のいらない公立の新制中学に進
学できるというので、多くの生徒が
公立へ転校し、そのため私学はどこ
も運営に大変苦労しました。そんな
なか、清風は鉄筋校舎の建設を計画
します。

昭和29年9月、セメントを運ぶト
ラックが校庭に入ってきた時は、全校
生徒が授業を中止し、その光景に手
をたたいて喜んだものです。昭和30
年3月、現在の事務所部分に一部2
階建の鉄筋校舎ができました。これ
を皮切りに昭和31年から本格的な
校舎建設に取りかかるのですが、当
時最新式の非常にスマートな円形校
舎を建てようということになりました。

この円形校舎に関しては、いろいろ
なことが起こりました。

PTAの役員に建築会社の社長が
おられ、はじめ円形校舎の施工はそ
の人に依頼しました。融資は日本長
期信用銀行と大和銀行が引き受け
て下さいました。

設計ができ基礎工事を始めた段
階で、実は円形校舎の設計には特許
があり、坂本鹿名夫氏が保有してお
られることを、当時同じように円形

校舎を建設しておられた四天王寺
高等学校校長の瀧藤準教先生から
お聞きし、急遽、坂本先生に改めて
設計をお願いすることとなりました。
やがて再設計もできあがり、数社
から施工費の参考見積を取りまし
た。

お願いすることにしたのは松村組
でした。ところが地鎮祭を翌日に控
えた夜中の12時頃、PTAの役員が
紹介した建築会社の役員が、10人ほ
どの社員を連れて学園長宅にやって
きて、「うちにくれ」と朝まで粘るの
です。もちろんそんなことはできない
と断るのですが、なかなか承知して
くれません。話は次第に恐喝じみて
きました。最終的には松村組が仲
裁に入り、解決してもらいました。

この建築会社を経営していたのは
実はやくざで、当時多くの私学と同
じように入り込もうとしていました。
学園長に何かあつては大変だと、仕
込み杖をちらつかせる社員相手に私
一人で交渉にあたりました。当時ま
だ20代でしたが、無茶なことをした
ものだと思います。後にこの建築会
社は恐喝で検挙されました。私も大
阪府警本部に呼び出され、事情を聞
かれました。清風には被害がなく、
本当に助かりました。この事件が原
因となり、清風はPTA解散の止む
無きにいたります。

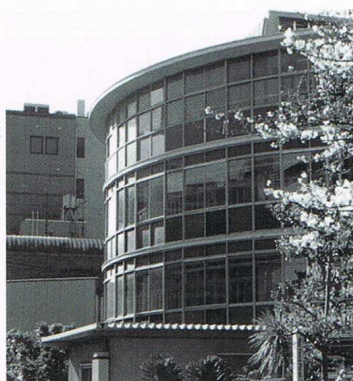
様々の苦難を経て、昭和32年3月、
円形校舎は完成しました。落成式

は府下の中学校の先生をお招きし、
盛大に行われました。学園長がいっ
つも大きな事を言っておられたので、記
念品は大風呂敷にさせてもらいまし
た。それがまた大好評でした。生徒
たちは、新築の円形校舎で行う卒業
式を大変喜んでくれました。

円形校舎内に講堂を作ったのは全
国で清風が初めてだと思えます。そ
のおかげで見学の方が全国から来ら
れました。

昔は学校前の道は舗装されていな
い地道で、車の往来も少なく静かな
ものでしたが、やがて多くの家が立
ち退きをされ、道幅が拡がり車も増
えてきたので、現在のようなアルミサ
ツン外壁を施しました。講堂も、体
育館の落成に伴い、体操の練習場へ
と姿を変えました。

その後の学園の隆盛は皆様ご承
知のとおりです。皆様が学園の日々
を懐かしく思い起こすとき、円形校
舎のたたずまいは、長くそのよすが
であり続けることと思えます。



▲円形校舎



会長 藤内 英夫

日頃は清風宥峯会並びに清風学園に格段のご支援とご協力をいただきまして、心より厚くお礼申し上げます。会員皆様のお陰をもちまして、清風宥峯会も徐々にはありますが発展し、会員数も2,800人余りとなりました。また、その内容も逐次充実に努めているところであり、本当にありがとうございます。

今年には戦後60年、あの何も無かった時代、衣・食・住に苦しんだ生活、粗末な校舎やガリ版刷りの教科書で勉強していた頃に比べ、今は何不自由のない飽食の時代となりましたが、心の豊かさをどれほど感じていることでしょうか。「朱に交われれば赤くなる」の喩のとおり、「人は環境によって染められ、立派な人になるには立派な指導者によって育てられる。」と校祖「宥峯先生」より教わってまいりました。清風学園の建学の精神である徳・健・財の教えは、宥峯先生より英信理事長に脈々と継承されることに

よりまして、幸いに私たちは迷うことなく「福の神」コースを歩ませていただいております。今日では東大や京大への進学をはじめスポーツ界でもオリンピック選手を輩出するまでになりました。これは卒業生の私たちにとりましても自慢すべきことであり、非常に誇らしく思っております。過日も第2回講演会に卒業生を講師としてお招きさせていただきました。ご講演の随所に「清風魂」の教えが満ち溢れ、聴講者に深い感動を与えていただきました。このように種々の機会を通じて母校にご帰校願ひまして、後輩のご指導と叱咤激励をお願いしたいと考えております。

今後とも、清風宥峯会や清風学園の諸行事に万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。



第2回講演会

「迷った時の決断法」 (三つまでなら僕でも出来る「三考法」のススメ)



道楽代表取締役社長 今津 久
JRI(株) 代表取締役 今津 久

8月27日第2回講演会が昭和44年卒業のJRI(株)に道楽代表取締役副社長今津久雄氏を講師として清風学園南館7階で開催されました。

今津氏は、清風学園の徳・健・財という校祖「宥峯先生」の教えを今も社員教育に生かしておられ、特に「財」については、学生の頃は教育者が「なぜお金なのか」理解できなかったが、社会に出てようやくその重要性を痛感されたそうです。

人生は80年、内20年は両親による保護と成長の時代であり、実際自分自身で生きていけるのが60年、これを2分すると、30年であり50歳が人生の折り返し点となります。すなわち、50歳までは失敗が許されるが(チャレンジ出来る)、50歳からは大きな失敗は許されません。この失敗をしない方法として、三考方を考案し、実践してこられました。この三つというのは、自立できる最低の数であり(カメラの三脚のように)、安定を求めて、4、5、6と足の数を増やすと増やすほど安定感は増しますが、平らな所(安定した場所)しか立てなくなり、二本足なら凸凹の不安定な所でも立つことができず、

例えば剣道でも対戦するの

は2人ですが、審判員という第三者がいて、自分が1本と思っても審判員が旗を揚げてくれない、審判員が勝てないのですから、審判員を意識した試合運びも求められるのです。

かに道楽関東ブロックでは飲食・健康・教育の三分野で事業を展開しておられ、「かに」は勿論、うどん製造、ウーロン茶、通信教育にも取り組んでおられます。今津氏も55歳ですから、失敗が許されない年齢ですので、ニッチ産業(隙間産業)に取り組んでおられます。また、レストラン部門はすでに後継者に任しておられますが、後継者が失敗したらいつでも復権できるようにしてあるそうです。リカバリーできる体力がある内に、権限委譲するのが重要なのです。一千人の従業員の生活を守る責任があるからです。

よく「ほうれん草」(報告・連絡・相談)と言われますが、今は「かくれんぼう」(確認・連絡・報告)が重要で、仕事の完結は確認作業なのです。
三考法の1例として、顧客の拡大を考えますと、新規開発・リピーター・外販の3つ。この新規開発を広告・紹介・告知の3つ。リピーターを特典・待遇・メニューの工夫の3つ。外販を通販・



学校行事

**体
育祭**



**文
化祭**

第20回総会を振り返り

平成十七年度の総会は、五月十五日(日)都ホテル大阪浪速の間に於いて開催されました。総会開催の前に、四月に他界された岡田三郎先生をはじめ、清風学園関係者の物故者に対し黙祷を捧げました。続きまして、平岡英信名誉会長及び藤内英夫会長のご挨拶を頂きました。

議事に入りまして、議案第1号「役員改選」では会則第九条の規定により役員任期は2年ですので、会長の選任を問うものですが、賛成多数によりまして藤内会長が再選されました。藤内会長より別表の役員が委嘱されました。

次に議案第2号平成十六年度事業報告及び議案第3号平成十六年度会計決算報告、会計監査報告が上程され、審議の結果、承認されました。

次に議案第4号平成十七年度事業計画(案)及び議案第5号平成十七年度会計予算(案)が上程され、慎重審議の結果、原案通り議決されました。

総会終了後、同会場に於きまして懇親会が開催されました。懇親会では、清風南海学園平岡正己学校長を来賓としてお迎えし、恩師として井上応順先生、奥本敏雄先生、新城修先生、田中武彦先生をお招きして在学当時の話で大変盛り上がりおりました。イベントでは関西フィルハーモニーのバイオリン奏者「友永健」二さんとピアノ奏者「加地美秀子」さんによるクラシック音楽を十分に堪能していただく中、清風学園当時に戻ったような青春のオーラが満ち溢れたひと時でした。

平成16年度事業報告書

日付	内容	場所
平成16年5月1日	入会者整理作業および問い合わせへの対応 役員会に向けての打合わせ	(学)清風学園法人本部
5月15日	入会者整理作業・問い合わせへの対応	(学)清風学園法人本部
5月22日	入会者整理作業・問い合わせへの対応	(学)清風学園法人本部
5月26日	会計監査	(学)清風学園法人本部
5月28日	総会(役員会において代行)及び役員会	(学)清風学園南館会議室
6月5日	会計処理および入会者整理作業・問い合わせへの対応	(学)清風学園法人本部
6月12日	会員親睦事業「先生を囲む夕べ」の準備及び会報企画会議および入会者整理作業・問い合わせへの対応	(学)清風学園法人本部
6月19日	会員親睦事業「先生を囲む夕べ」の準備打合せ並びに案内状発送準備	(学)清風学園法人本部
6月26日	会報の取材(黒川みどり氏)	(学)清風学園理事長室
7月3日	常任幹事会	(学)清風学園法人本部
7月10日	会計処理・会報企画会議および入会者整理作業・問い合わせへの対応	(学)清風学園法人本部
7月17日	会計処理・会報企画会議および入会者整理作業・問い合わせへの対応	(学)清風学園法人本部
7月24日	会計処理・会報企画会議および入会者整理作業・問い合わせへの対応	(学)清風学園法人本部
7月31日	常任幹事会開催に向けての最終議題確認と資料作成	(学)清風学園法人本部
8月7日	会員親睦事業「先生を囲む夕べ」の準備打合せ	(学)清風学園法人本部
8月14日	会員親睦事業「先生を囲む夕べ」の準備打合せ	(学)清風学園法人本部
8月21日	会員親睦事業「先生を囲む夕べ」の準備打合せ作業	(学)清風学園南館ホール
8月28日	会員親睦事業「先生を囲む夕べ」 懇親会	ホテル アウイーナ大阪
9月4日	事業会計処理	(学)清風学園法人本部
9月11日	会計処理・会報企画会議および入会者整理作業・問い合わせへの対応	(学)清風学園法人本部
9月18日	会計処理・会報企画会議および入会者整理作業・問い合わせへの対応	(学)清風学園法人本部
9月25日	会計処理・会報企画会議および入会者整理作業・問い合わせへの対応	(学)清風学園法人本部

平成16年度事業報告書

日付	内容	場所
平成16年10月2日	会報企画会議および入会者整理作業・問い合わせへの対応	(学)清風学園法人本部
10月9日	会報企画会議および入会者整理作業・問い合わせへの対応	(学)清風学園法人本部
10月23日	会計処理・会報企画会議および入会者整理作業・問い合わせへの対応	(学)清風学園法人本部
10月30日	常任幹事会	(学)清風学園法人本部
11月6日	会報発行準備作業	(学)清風学園法人本部
11月13日	会報発行準備作業	(学)清風学園法人本部
11月20日	会報発行準備作業	(学)清風学園法人本部
11月25日	科学フォーラム参加	(学)清風学園南館7Fホール
11月27日	会報発行準備作業	(学)清風学園法人本部
12月4日	会報発行後処理作業	(学)清風学園法人本部
12月11日	会報発行後処理作業	(学)清風学園法人本部
12月18日	入会者及び問合せ対応	(学)清風学園法人本部
12月25日	入会者及び問合せ対応	(学)清風学園法人本部
12月26日	全国高校駅伝競走応援	京都市西京極付設マラソコース
平成17年1月1日	拝賀式	(学)清風学園清風神社
1月15日	入会者及び問合せ対応	(学)清風学園法人本部
1月27日	卒業式	(学)清風学園
1月29日	幹事会	(学)清風学園法人本部
2月6日	入会者及び問合せ対応	(学)清風学園法人本部
2月12日	入会者及び問合せ対応	(学)清風学園法人本部
2月19日	入会者及び問合せ対応	(学)清風学園法人本部
2月26日	幹事会	(学)清風学園法人本部
2月28日	100km支援事業打ち合わせ	(学)清風学園法人本部
3月5日	入会者及び問合せ対応	(学)清風学園法人本部
3月12日	100km支援事業準備	(学)清風学園法人本部
3月16日~17日	100km歩行支援事業	(学)清風学園~高野山
3月26日	幹事会	(学)清風学園法人本部

役員一覧表

役職名	氏名(卒業年)
名誉会長	平岡 英信(理事長)
会長	藤内 英夫(S25年)
副会長	増田 勇(S25年)
副会長	平岡 宏一(専務理事)
会計	中村 大蔵(S62年)
会計	丹治 良一(事務長)
幹事長	平井 久雄(S46年)
常任幹事(総務委員会)	山口 昌孝(S47年)
常任幹事(総務委員会)	吉澤 光一(S48年)
常任幹事(総務委員会)	西野 弘一(S62年)
常任幹事(会員管理委員会)	平井 良彦(S41年)
常任幹事(会員管理委員会)	梅本 晃央(H2年)
常任幹事(会員管理委員会)	瀧藤 順聖(S13年)
常任幹事(広報委員会)	国立 英一(S42年)
常任幹事(広報委員会)	吉田 青弘(S46年)
常任幹事(広報委員会)	奥野 真英(H12年)
会計監査	渡邊 浩孝(S37年)
会計監査	小島 徹(学監)
相談役	工藤 将人(法人本部事務局長)
参与	監物 永三(日本体育大学教授)
参与	緒方 良(S52年)

収支計算書

自平成16年4月1日至平成17年3月31日 (単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異	備考
I 収入の部				
1 入会金収入	4,000,000	4,325,000	△325,000	
入会金収入	4,000,000	4,325,000	△325,000	
2 事業収入	2,000,000	905,000	1,095,000	
交流会収入	1,800,000	405,000	1,395,000	
広告料収入	200,000	500,000	△300,000	
3 寄付金収入		60,000	60,000	
寄付金収入		60,000	60,000	
4 雑収入	400	13	387	
受取利息	400	13	387	
当期収入合計	6,000,400	5,290,013	710,387	
前期繰越収支差額	5,100,991	5,100,991	0	
収入合計	11,101,391	10,391,004	710,387	
II 支出の部				
1 事業費	2,500,000	933,721	1,566,279	
事業原価	2,000,000	525,500	1,474,500	
交流会費	2,000,000	525,500	1,474,500	
事業経費	500,000	408,221	91,779	
学校行事支援事業費	500,000	408,221	91,779	
2 管理費支出	1,660,000	1,685,661	△25,661	
会議費	30,000		30,000	
消耗品費	30,000	24,082	5,918	
入会案内費	500,000	11,240	488,760	
会報費	900,000	1,504,389	△604,389	
事務委託費	200,000	145,950	54,050	
3 予備費	1,840,400		1,840,400	
当期支出合計	6,000,400	2,619,382	3,381,018	
当期収支差額		2,670,631	△2,670,631	
前期繰越収支差額	5,100,991	7,771,622	△2,670,631	

新入会員865名(新卒生773名、既卒生92名)

“輝いた先輩達”

世界の体操界の誇り



国際殿堂入り

監物 永三氏
 (日本体育大学教授、本学昭41年卒)
 2006年国際体操殿堂入り決定。
 日本人として9人目の快挙。



紫綬褒章受章

具志堅 幸司氏
 (日本体育大学教授、本学昭50年卒)
 平成17年秋スポーツ功労による。



中 寛和先生

祝 功労賞受賞

中先生・上村先生 私学教育功労知事表彰を受賞
 平成17年度私学教育功労知事表彰を5月に中寛和先生、11月に上村國治先生が受賞されました。

中先生は、クラブ指導者として剣道一筋で、自らも輝かしい戦績を残されておられますが、昭和42年以来38年間の奉職活動のなか約14年間に亘って生活指導部の幹部として建学の精神を日常の生活指導に定着せしめた功績により受賞されました。

上村先生は、昭和43年清風学園に奉職され、体育教諭として柔道部の顧問及び監督の立場で文武両道の「武」を哲学的信念と献身的な努力において、名実ともに実践・育成され、「武」と「文」の調和により青少年の健全育成に務められた37年7ヶ月の功績により受賞されました。



上村 國治先生

収支予算書

自平成17年4月1日 至平成18年3月31日 (単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 収入の部				
1 入会金収入	3,850,000	4,000,000	△150,000	
入会金収入	3,850,000	4,000,000	△150,000	
2 事業収入	2,000,000	2,000,000	0	
交流会収入	1,800,000	1,800,000	0	
広告料収入	200,000	200,000	0	
3 雑収入	400	400	0	
受取利息	400	400	0	
当期収入合計	5,850,400	6,000,400	△150,000	
前期繰越収支差額	7,771,622	5,100,991	2,670,631	
収入合計	13,622,022	11,101,391	2,520,631	
II 支出の部				
1 事業費	3,000,000	2,500,000	500,000	
事業原価	2,000,000	2,000,000	0	
交流会費	2,000,000	2,000,000	0	
事業経費	1,000,000	500,000	500,000	
学校行事支援事業費	1,000,000	500,000	500,000	
2 管理費支出	2,240,000	1,860,000	580,000	
会議費	30,000	30,000	0	
什器備品費	1,000,000	1,000,000	0	
消耗品費	200,000	30,000	170,000	
入会案内費	10,000	500,000	△490,000	
会報費	500,000	900,000	△400,000	
総会費	500,000	500,000	0	
事務委託費		200,000	△200,000	
3 予備費	610,400	1,840,400	△1,230,000	
当期支出合計	5,850,400	6,000,400	△150,000	
当期収支差額			0	
次期繰越収支差額	7,771,622	5,100,991	2,670,631	

議案 第4号

平成17年度 事業計画(案)

月 日	事 業	備 考
4月	常任幹事会	
5月	常任幹事会 役員会 第3回総会	
6月	常任幹事会	
7月	常任幹事会	
8月	常任幹事会 講演会及び交流会	親睦事業
9月	常任幹事会	
10月	常任幹事会 会報発行(第2号)	
11月	常任幹事会	
12月	役員会	
18年 1月	拝賀式 卒業式	
2月	常任幹事会	
3月	常任幹事会 役員会 第23回100km 歩行学校行事支援事業	

今年も **活躍** しました!!

インターハイ 国体出場クラブの紹介

平成17年度インターハイ出場(開催地:千葉県)

剣道(個人1名)、柔道(団体、個人6名 個人81kg級、90kg級)
 器械体操(7名)、テニス(団体、個人6名)、陸上競技(9名)、新体操(団体、個人8名)、フェンシング(個人2名)、ボート11名、ヨット4名 以上9クラブ 54名

平成17年度国体出場クラブ(開催地:岡山県)

夏季国体 サッカー(団体1名)、テニス(団体2名)、ボート(団体2名、個人1名)、ヨット(個人6名)
 以上4クラブ 12名
 秋季国体 器械体操(団体4名)、柔道(団体2名)、新体操(団体8名)、陸上競技(少年5000m、1名)、剣道(団体1名)、バレーボール(団体2名) 以上6クラブ 18名

全国高等学校サッカー大会 大阪地区予選において

11月12日(土)長居第2競技場で、全国高等学校サッカー大会大阪地区予選が行われた。

23年ぶりの優勝がかかった白熱した試合となった。相手は、大阪屈指の強豪大阪朝鮮高級学校である。

前半戦、緊迫した空気の中、惜しくも1点を取られ、後半、度重なる追撃にも、残念ながら、全国大会への道を閉ざされた。

今年は、心暖まる場面があった。試合中、足を故障した相手選手をわが校のキーパーが、介抱するシーンがあったのだ。

日頃、中国、韓国をはじめ世界中の学校と交流のあるわが校生徒たちは、競技や国際交流の場でも、「徳・健・財」の清風魂を実践の場で、華開かせた出来事であった。

来年のさらなる活躍を祈りたい。

スポーツOB会の活動

清風高校運動部の活躍は素晴らしいものがあります。今年のインターハイ出場は9クラブ、国体出場は6クラブと大阪府下トップクラスであります。

また、卒業生でもオリンピック出場、世界選手権出場で多数の選手が活躍しています。

この活躍は、私たち運動部の卒業生だけでなく、清風高校卒業生全員の誇りでもあります。清風岩峯会では、現役選手、また卒業生でも現在も活躍中の選手にも応援を致しております。

清風岩峯会会員で運動部出身の方は、いまだ未加入の卒業生の方々にも清風岩峯会への入会をお願いして下さいます様に声を掛けて頂ければ幸いです。

また、運動部卒業生を中心に過去3回ゴルフコンペを実施しています。次回は平成18年4月ごろを予定致しております。清風岩峯会の会員様もふるってご参加いただけますようお願い申し上げます。

多数のご参加をお待ちいたしております。

スポーツOB会 代表幹事 平井 良彦
 (昭和40年度卒業生 サッカー一部OB)

来年も応援しましょう THE近畿

2006年インターハイが近畿地方で開催されます。

平成18年度全国高等学校 総合体育大会06総体THE近畿

■期間:8月1日(火)から25日(金)まで

“君がひかり近畿の空は青くそまる”

一寸懐かしい話(金メダルへの礎を築いた男たち)



田中 武彦先生

当時は、電気科、商業科、普通科と

田中武彦先生は、昭和33年母校天草高校の恩師佐々木先生(大阪学芸大教授)が、当時の清風高校の体育講師をされていたご縁で本校に就職されました。

面接は、現理事長が、その当時珍しかった車の中でされたとのこと。その当時の校舎は、すでに東西南北及び円形校舎も建てられており、現在とほぼ変わらない様子でした。

当然ですが、現在の南館校舎は、ありませんが……先生が入られた時は、体育の先生は一人で、設備も揃わず、体育の授業で2クラス同時に行うのに、バレーボール1個しかなく、仕方がないので、準備体操のあとは、真田山公園までランニングということが、度々あったそうです。

当然、お一人で体操部、柔道部、剣道部の指導を掛け持ちでされてました。また、クラブも同好会でした。ですから、専任で指導することは出来ず、次から次へとクラブの練習を見て回ることしか出来なかつたとのこと。

また、今の様に体育館や道場があるわけもなく、体操部や柔道部は運動場にそれぞれ、マットや柔道畳を敷きつめ、鉄棒や吊り輪などの器具をいちいち設置しなければならぬ状況でした。

その頃の非常に活発だった生徒達に生活指導担当の岡田三郎先生(故人)、カクタ先生(現イザキ先生)、宮浦先生、サカモトマキオ先生が、毎日厳し

一クラス60名で、一学年で、500名くらいでした。

当時の体操部は、理科担当の宮浦先生が、顧問をされ、まだ創部したばかりでしたが、翌年の34年に橋本氏が、大阪で個人優勝して、インターハイに出場を果たし、昭和35年に大阪地区で団体優勝し、現在の体操部とつながる成績を残して来られました。

田中先生は、日本体育大学在学中は、サッカー部に所属され、本校に來られてから、体操関係の資格を取得され生徒の育成に励まれました。

その後、サッカー部、相撲部、ウエイトリフティング部、陸上部等数多くのクラブが創設されました。相撲部出身者には、その後、十両になった清の華(花籠部屋)を始め、数人の関取が出ました。

昭和33年当時、現サッカー部の浅川先生が生徒でおられました。ちなみにボート部は、龍人先生が顧問になられて創部され、新潟国体に出場しました。もともと、体操部は、現理事長が、本校に特色をもたせるため、他校であまりされていない競技を中心にクラブをつくられたとのことでした。

そのような中、体操で有名であった高津中学より、山口氏(現本校体操部部长 山口先生)が、入学されました。

学園創立者 校祖 平岡宕峯先生の戒律の精神を守って、タバコの検査等、

“先生の今昔物語”

も多くの誕生しました。ショットラック部、水泳部(アジア大会優勝)、高飛び込み部、自転車部、ボクシング部、バントム級の選手もいたとの事です。生徒に負けず、エベレスト登頂された先生もおられました。

スポーツを始め各方面で有名になつてきました。そのご縁で、当時の大阪府立体育館のナガノ館長より、書でも高名であられた校祖 宕峯先生に、

い指導をされていたとの事でした。昭和40年代になると、清風南海高校も開校され、教師も15名に増え、今までの生徒とは違って、運動だけではなく、進学面でも優秀な生徒が増えてきて、文武両道という校祖、宕峯先生が目指されていた学園に近づいてきました。

校内もより一層家族的になり、生徒数も急激に増加するにつれて活気も出て、清風南海に負けるなど、現役で京大に進学するなど、また日体大に進学した監物氏が、3年生の時にメキシコオリンピックで金メダルを取るなど、素晴らしい活躍が始まった時代でした。

そんな時代の中、体操部を中心に、各運動部も互いに切磋琢磨しあい、テニス部が団体で柳川高校のインターハイ15連覇を阻止しました。

当然先生も、熱血先生が多く、先程のテニス部では、清風南海まで走って行って練習を行うこともあったそうです。校内に毛布一枚と食料を持ち込み、飯を炊いて合宿をしたのもその頃からでした。多くの運動部が、インターハイや国体に出場しました。

また、その頃は一度だけのクラブも多く誕生しました。ショットラック部、水泳部(アジア大会優勝)、高飛び込み部、自転車部、ボクシング部、バントム級の選手もいたとの事です。生徒に負けず、エベレスト登頂された先生もおられました。

スポーツを始め各方面で有名になつてきました。そのご縁で、当時の大阪府立体育館のナガノ館長より、書でも高名であられた校祖 宕峯先生に、

3年間、高等学校の1年から3年までを担任した卒業生たちの同窓会がありました。24歳になる彼らはほとんどが就職しており、立派な社会人

改修されていた大阪府立体育館内に飾る書をご依頼されたとの事でした。(現在、VIPルームと地下の剣道場に飾ってあります。)

「東大は、高校3年間を2回行い、2年間受験勉強したら必ず入学できるが、オリンピックで金メダルを獲る事は、4年に一度、世界の一流の選手が集まりその中で一人しか金メダルが獲れない。だから、その金メダルを獲るという事は、すごいことなのだ」と生前常々校祖 宕峯先生が仰つていましたが、そのオリンピックへも「朝夕で出ることができない」

知育・徳育・体育(徳・健・財)が、花咲きだしたころでした。



担任 清風学 園に奉 職して、 理Ⅲ 編之 裕 早9年 目とな

訪れてくれることだけども、「清風は素晴らしい学校なんだ」と感じると共に、清風に転勤をし奉職できた事の喜びを実感しています。

になつてに感動しました。そして、なによりも嬉しく思ったことは、「高校に清風を選んで本当に良かった」と皆が言ってくれたことでした。在学時は少々「やんちゃ」な生徒たちだった彼らは、先生方のご指導を受けることも多かったのですが、それも含めて清風での日々が今では懐かしく、よい思い出となっているようです。私自身、週に3度行った夜9時までの「居残り勉強会」や、月に一度行った学校で寝食を共にする『平日勉強合宿』など、彼らと過ごした時間に懐かしさを感じています。また、その卒業生の中から教職に就くことを志している者が何人かいて、さらには清風学園に奉職したいという者もいました。

自分の居場所の本当の良し悪しを判断できるのは、自分がその居場所を離れて、客観的に見つめられるようになったときではないでしょうか。前述の卒業生たちも、在学時代は決して楽しいだけの毎日ではなかったと思います。つらくてしんどいこともあったはずですが、しかし、それを乗り越えた今、過去を振り返って「あの頃は良かったな」と思えるのは、彼らの居場所であった清風が、本当に素晴らしい学校である証ではないでしょうか。

私自身、今その居場所の真直中におり、客観的に見つめることができていないかも知れませんが、しかし、前述の卒業生を含め、多くの卒業生が学校を訪れてくれることだけでも、「清風は素晴らしい学校なんだ」と感じると共に、清風に転勤をし奉職できた事の喜びを実感しています。

清風の金八先生と呼ばれて

全身に沁みる感動を味わった。完歩を成し遂げた生徒達は足を引きずりながらも、嬉しそうである。今回は同行取材としての参加でしたが、こんなに感激させられたことは生涯の良い思い出になり感謝に堪えない。

ボランティア募集!!

平成18年3月17日(金)、18日(土)に、母校から高野山まで、第23回100km歩行が、挙行されます。この行事は、多くのボランティアのサポートが必要です。一人でも、多くの会員の皆様のお力をお貸し頂けます様をお願いします。両日のご参加がご無理な方は、1日だけでも結構ですので、事務局までご連絡を頂ければ、幸甚です。具体的なサポートについては、2月に説明会を開催する予定です。



こんなところにOBが… 「清風魂と私」

弓場 徹 (ゆうばとおる)
三重大学教授・東京大学客員研究員、
発声研究家・音楽家

簡単自己紹介。新しい音声生理学の基礎を構築し、新発声法「YUBAメソッド」を開発。プロ歌手等の指導、1000を超える音痴矯正成功例は世界初。科学研究の成果は外務省から世界110数ヶ国に紹介され、ニュースや教育番組等として発信。

我が清風の素晴らしさは、文武両道のみならず社会で直接役立つ教訓をたくさん教えて頂いたことだ。清風魂＝「徳」を積み社会の信頼を得、「健(康)」に留意し、世に還元できる「財」を築く。ガンガン稼げ、でも社会や自分のためになる有意義な使い方をしろ!この「財」の教えは特に気に入った。朝礼での、利用される人間になれ、やるなら世界一、待ち合

わせの時間の5分前到着、信頼を獲得する借金返済法、などの教えは社会人になってからも私の重要な規範となり実用レベルで何かと役立っている。

通学時帽子を忘れ「般若心経」1枚、遅刻をしてまた1枚、髪がなぜ耳にかかっててはいけないのかの教師との議論の末「般若心経」10枚、頭を洗うのが楽でのびるまで時間が稼げるという理由から一枚刈、素晴らしい担任教師と北海道1500kmの自転車走行、カバンに大工道具を入れ学校帰りに足こぎ自動車制作、音楽の道に進むことへの家族の反対のため家出、昼休みの体育館でのピアノ練習などなど、およそ同級生とはかけ離れた破天荒な学生生活を送っていた。今では全てがいい思い出である。

同級生で金メダリスト具志堅の、知恵をしぼり肉体を鍛錬し高みに至る姿を目の当たりにできたことは強烈な刺激となった。剣道の試合で彼と当たるとエネルギーの塊のような衝撃で、次の瞬間私の足や腕は見事に叩き抜かれていた。試合は面2本で勝ったが、真剣ならばとっくに死んでいた。ゾツとした。私は彼に憧れの宮本武蔵を見た。

私のモットーは4つ。

1. 新規性:誰もまだやったことのない又は成功したことがない。
2. 普遍性:時代とともに色あせずますます重要さを増す。
3. 可変性:汎用性が高く時代に即応して広く使える。
4. 他者が容易に真似できない。

発声の仕組みと制御法を考えはじめたのは20歳からで、「YUBAメソッド」という実践的体系を構築するには40代半ばまでかかった。

弓場 徹氏のホームページ

→<http://www.good-voice.com>

著書、CD紹介

「CDをまねるだけで歌のうまい子になる超簡単ボイストレーニング」 10月19日発売 PHP社

CD BOOK 「奇跡のボイストレーニングBOOK」

CD「歌う筋肉 夢のボイストレーニング」

VIDEO「弓場メソッドによる新発声指導法」

ボランティア参加申込書

●ご氏名 (卒業年度: 年)

●御電話番号

●参加日 **3月17日** ・ **3月18日** どちらかに○印をつけてください

申込先FAX. **06-6774-6798** 切り取らずに、この12ページのままお送りください。

100km歩行に挑戦

(同行取材として1期卒業生74歳)

学校の行事の1つに100km歩行が22年間も続けられていたことも知らず今回初めて参加させて頂いた。100km歩行についての心得や概要、注意事項その他歩行順序まで説明を聞いて出発した。なにせ全員で370名余りのこと、歩道を2列になって歩くにしても大勢のこと、故に賑やかなことである。道路には信号機が多いので、列が途切れ途切れになり非常に危険だ。

最初の間は互いにハイキング気分で、学生諸君は元気一杯である。歩きながら話も弾んでいる。私達老人組も中に混じって歩いた。一応生徒の安全歩行サポート役ということである。社会に迷惑をかけぬように、又交通に注意を払いながらの気配りである。

気候は少し暑い位で久しぶりの楽しい感覚である。無論、この100km歩行の完歩は、不可能なことは承知の上、30時間一睡もせず歩行することは出来なくても、せめて半分の50kmか30kmか、それともどれ位の時間と距離なら歩けるか試してみたかった。毎日多少ウォーキングはしていても連続歩行は大変不安である。

学校を8時に出発し四天王寺参詣から堺の大仙公園で昼食を取り、家原寺、大蓮公園、槇塚東公園と約33km程である。途中遊歩道の所では、丁度春の夕暮れ、季節の空気が美味しく気持ちが良い。すると、もう夕食時間である。私達老人組は少しバテ気味である。食後は夜の歩行準備に

入る。頭にヘッドランプを付け、夜は寒いらしく防寒服に着替えるのである。我々、老人組は先を案じてここでリタイアすることに決め、次のチェックポイント天野山金剛寺に車で先回りして一行を待つことにした。夜9時頃である。しばらくするとヘッドランプの列が見え、ランプの先が右、左に揺れて見えてきた。生徒達も大分疲れて来ているのだろう。ここでトイレ休憩である。

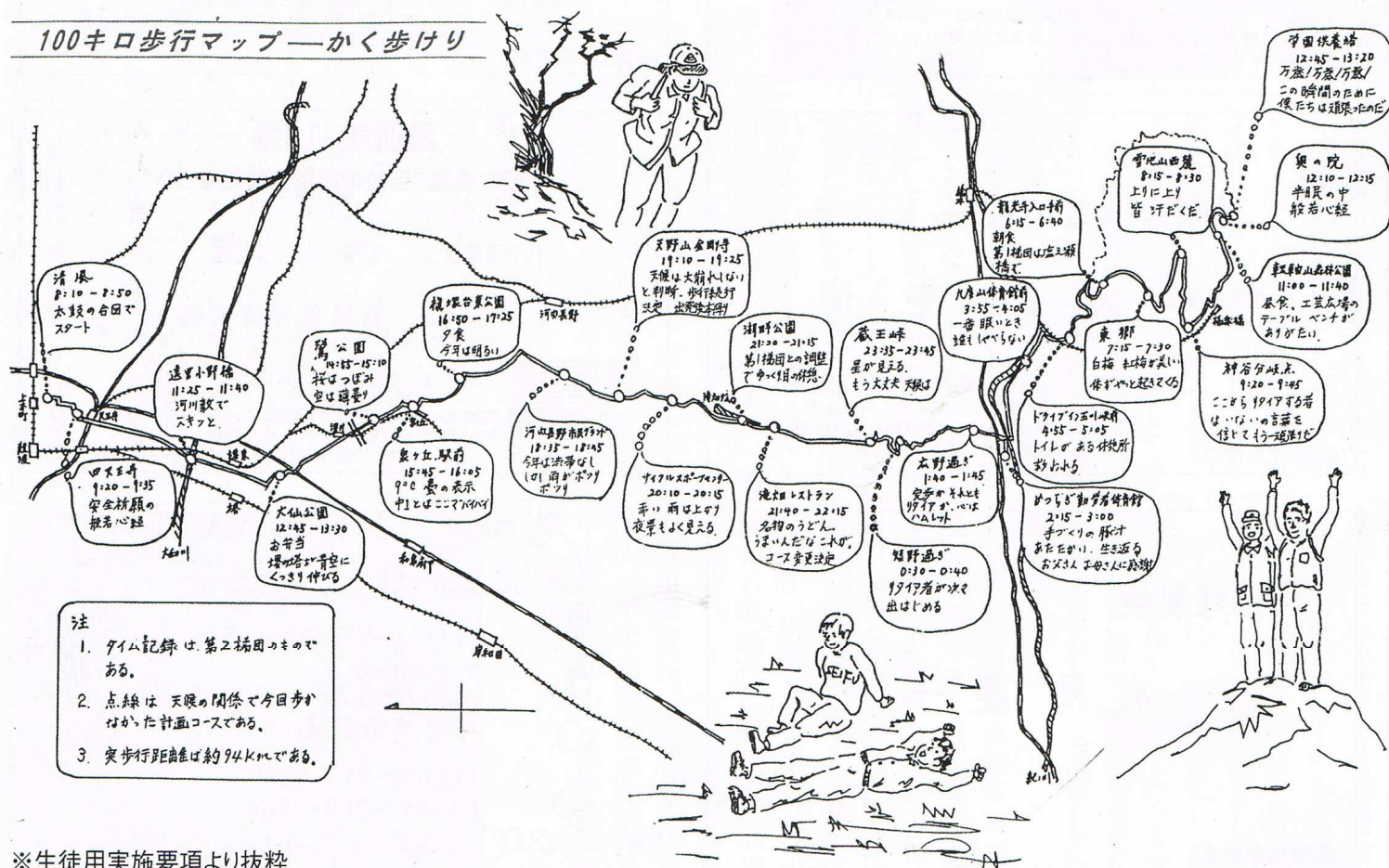
皆で労いの言葉を掛けてやる。次は、滝谷レストランにて温かいうどんの接待を頂き蔵王峠を越え、かつらぎ体育センターにて待機の保護者、先生方と共に一行の到着を待つことにした。

深夜のことで静まり返っている。ただ大鍋でウーロン茶を温めているスタッフ達が忙しく働いている姿には感無量である。やがて、一行が見える。列も途切れ途切れでやって来る生徒の一人一人の顔を見ると、自然と涙が込み上げてくる。「よく頑張った」「よく頑張ったな」とつい拍手する。もう夜明け近い5時頃である。

小休止の後、再出発だが、これ以上は気力と根性がなければ出来ないと感じた。さすが若い諸君である。根は元気で、まだまだ澁刺としている。次は塩ノ瀬の里でのトン汁のお接待の所である。保護者の方々によるサービスである。とっても美味しい、有り難い限りである。又、元気が戻ったという。

今年はここで、あいにくの雨となり危険を避けバスに変更した。よって、清風学園供養塔前で全員集合し校長先生による激励のご挨拶を受け全員般若心経読経の後、奥の院に参詣の上全員で再度般若心経を読経し壮厳なお勤めで

100キロ歩行マップ—かく歩けり



※生徒用実施要項より抜粋

全国高校駅伝競技 31回出場 (連続28回)

12月25日(日) 京都西京極陸上競技場 12時30分スタート!!!
(1時間前に男子開会セレモニーがあります)

西京極——京都国際会館(折返点)——西京極

全長42.195km
(7区間)のコース

■応援する場所

1. スタート、ゴール地点(西京極陸上競技場)
清風応援旗を目じるしに
2. 国際会館(折返点) *詳細は、P8・9をご参照ください。



都大路で全員集合!!

ご紹介をお願いします。

会員相互の親睦と母校の進歩発展に寄与することを目的に『清風宕峯会』が、発足いたしました。

今後『清風宕峯会』は、総会(年1回)・講演会や親睦会の開催・会報誌の発行・100km歩行のサポート活動などさまざまな行事を予定しております。

今後の母校と清風宕峯会の発展のため、より多くの卒業生の方のご入会がいただけますよう、ご紹介を事務局までFAXにて、お願い申し上げます。

入会のご案内をご紹介先に送らせていただきます。

会長 藤内 英夫

事務局：学校法人清風学園 法人本部内

電話：06(6771)5757 (学園代表番号)

F A X：06(6774)6798

(職員が常勤しておりませんので、ご理解のほどお願い申し上げます。)

不明会員ご存知の方は
お知らせください。

金井 勇介	福留 正夫	河野 拓也
高次 智雄	小森 翔太	久下 武志
速水 悠佑	中森 啓仁	橋本 竜太
堀内 浩史	真戸原秀重	菊山 勝俊
坂本 忠鷹	西村 徳真	岡本 功
奥村 佳文	奥島 研司	堀 和弘
辻田 紘志	市岡 大輔	澤田 友宏
田島 拓	蔦岡 英起	中辻 正章
中島 伸幸	稲本 直樹	梶谷 延彦
森 滋	森園 逸紀	是方 法光
瀧澤 誠	山 島 浩	西崎 行亮
長谷川嘉伸	高本 航	武田 徳弘
森本 昌彦	大内保 輝	清水 徹

(敬称略)
以上

編集後記

前回の創刊記念号
に続き、今回、会報誌「智

慧」を発刊することになりました。前回の記念号に較べて量的には少ないですが、その内容は「清風の今」をテーマにして最新の学校の話題(生徒、教職員)、多くの分野で活躍されているOBの方々の話題を広く伝えていくことに重点を置きました。

編集記事の作成にあたり、数少ないメンバーで時間を捻出し、編集をしています。時には、議論白熱する場面もありましたが、なんとか無事発刊に至りました。記事は何回も手直しをして確認しましたが、誤字で読みづらい箇所があればお許し下さい。これらの記事がより多くの同窓生のために、少しでも情報発信基地としてお役に立てれば、幸いと存じます。

多くの同窓生の御協力を頂き大変有難う御座いました。今後も、より楽しい会報誌を創っていきたく思いますので、これからも、楽しい記事を寄稿してください。

最後になりましたが、会報誌作成にあたり学校関係者、卒業生を始め多くの御協力を頂いた皆様方にこの紙面をもつて厚く御礼を申し上げます。

広報運営委員 SY

個人情報保護法の取扱いについて

お預かりした個人情報に関しては、その取扱いには十分に注意し、清風宕峯会会報の発行及び、同窓会活動の目的以外には、使用いたしません。